

新生美術館整備の現況について

○入札不落とその後の対応

- ・平成25年（2013年）12月に策定した新生美術館基本計画に基づき、県立近代美術館（大津市）について、「美の滋賀」の拠点となることをめざして、施設の増築・改修や機能の充実をはじめとした整備を進めてきました。
- ・平成29年8月、美術館本体工事が入札不落となったことから、より良い美術館を造るために、有識者や関係者の皆様からご意見を伺い、議論を重ねながら、設計の見直しを検討してまいりました。

○平成30年7月定例会議での表明

- ・しかしながら、2年後の東京オリンピック・パラリンピックを控え、建設単価が高止まりすると想定される中で、お約束した施設整備費の上限である47億円以内に収めることができなくなりました。
- ・また、県民の皆様にご理解いただくための説明や取組が十分ではなかったことも踏まえ、すべてを包含した新生美術館プロジェクトをこれまでどおり進めることについて、一旦、立ち止まらせていただくと表明しました。

○今後の対応

- ・「一旦、立ち止まる」とは、新生美術館プロジェクトそのものを凍結することとは考えておりません。
- ・近代美術館の施設・整備の狭あい化や老朽化、平成20年から閉館している琵琶湖文化館の機能継承については、喫緊の課題であると認識しており、この課題に優先して取り組んでまいりたいと考えております。
- ・今後はこの喫緊の課題への取組について、できるだけ早くお示ししたいと考えております。